



27日の米国市場主要商品の相場レポートをお送りします。

## 【貴金属】

2008/02/28 05:51

### 大幅続伸 = 最高値を更新 ドル安受け〔NY金〕(27日)

【ニューヨーク27日時事】27日のニューヨーク商品取引所(COMEX)の金塊先物相場は、対ユーロでのドル安進行を材料に買いが膨らみ大幅続伸し、中心限月4月物は1オンス=961.00ドルと前日終値(948.90ドル)比12.10ドル(1.3%)高で終了。4営業日ぶりに終値ベースの過去最高値を更新した。日中取引レンジは954.00-964.00ドル。時間外取引でも、967.70ドルの史上最高値をつけた。

この日は、ドル安、原油高を背景に高寄りした後、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長の議会証言待ちで上値はやや抑えられた。あと、同議長が金融緩和と政策の継続を示唆したことから、買いが戻った。

フューチャー・パス・トレーディングのアナリスト、フランク・レシュ氏は、「対ユーロでのドル最安値更新を受け、ファンド筋や投機筋が、金塊、銀塊を中心とした商品相場への資金流入を加速させた」と指摘。短期的な見通しについては、「心理的な節目である977ドルに達すれば、1000ドルの大台を目指す準備が整ったサインだ。3月の連邦公開市場委員会(FOMC)前に、為替要因次第で大台に迫る可能性がある」と述べた。

同氏によると、当面の上値抵抗線は967ドル、977ドル、992ドルに、下値支持線は941ドル、928ドル、913ドルにある見込みという。

金塊現物相場は午後1時39分現在、12.10ドル高の958.10ドル。(了)

## 【石油】

2008/02/28 05:59

### NY原油、一時102ドル台 = 在庫増で終値反落〔NY石油〕(27日)

【ニューヨーク27日時事】27日のニューヨーク商業取引所(NYMEX)の原油先物相場は、ドル安の進行で買いが膨らみ、代表的な指標である米国産標準油種WTIの中心限月4月物が未明の電子取引で一時1バレル=102.08ドルまで上伸し、初めて102ドル台に乗せた。その後始まった通常取引では、米国の在庫増を眺めて売り優勢に転じ、前日終値比1.24ドル安の99.64ドルで引けた。

原油だけでなく、金や小麦などの商品相場も高騰。同日のニューヨーク商品取引所(COMEX)の金塊先物市場では、中心限月4月物が未明に一時1オンス=967.70ドルの史上最高値を付けた。原油高でインフレ警戒が強まり、安全資産として金の需要が高まった。

26日の取引で4営業日ぶりに100ドルを突破した原油相場の騰勢は衰えず、米景気の先行き懸念を背景に、ドルがユーロや円など対主要通貨で売られてドル建て原油に割安感が出たため、一段高となった。

ウラン濃縮活動を継続するイランと米欧諸国の対立や、トルコ軍によるイラク北部侵攻など中東情勢の緊迫化に加え、石油輸出国機構(OPEC)の増産見送り観測も相場を下支えした。

ただ、通常取引時間中に米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間在庫統計は、原油が前週比320万バレルの大幅増となったほか、ガソリン在庫も同230万バレルの積み増しとなり、需給緩和観測が広がり相場は弱含んだ。

通常取引では、4月物の高値は101.15ドル、安値は99.50ドル。5月物は1.19ドル安の99.38ドルだった。

情報提供：時事通信社

● 「時事通信 商品マーケットサマリー」に掲載されている情報の著作権は、時事通信社または外部の情報提供者に帰属しており、無断で使用(複製、転載等)することはできません。

● 掲載されている情報は、作成時点までの最も信頼できると判断される各種情報、データ等に基づいて提供されています。万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。

● 本サマリーは、投資勧誘等を目的としたものではありません。掲載されている情報を利用した結果、または情報の遅延、中断、誤りによって被ったとされるいかなる損害についても、時事通信社および外部の情報提供者は一切責任を負いません。



## 【穀物】

2008/02/28 06:56

**利食い売りなどで続落〔シカゴ・トウモロコシ〕(27日)**

続落し、3月きりは5.50セント安の525.00セント、5月きりは6.00セント安の538.00セントで引けた。

今週初めに史上最高値を更新した後の、利食い売りなどを含む下向きの調整で、小麦相場的大幅下落も圧迫材料となった。

相場が過去最高値を更新したことで、各国では遺伝子組み換え(GM)品種を使用しない政策を放棄するよう圧力が掛かっている。韓国が最近、初の輸入に踏み切ったほか、日本も続くという観測が浮上している。

メテオロジクスによると、アルゼンチンでは全般に生育に適した天候が予想される。

米中西部の現物取引は横ばいか堅調。前日の相場下落を受け、朝方から売りは少ない。

3月きりの下値支持線は、20日間移動平均の510.50セント。9日間相対力指数(RSI)は70。(ロイターES時事)

2008/02/28 06:59

**技術的な調整で反落〔シカゴ大豆〕(27日)**

過去2日間の上昇後の技術的な調整で反落した。利食い売りも出た。3月きりは7.75セント安の1459.00セント、5月きりは9.00セント安の1475.25セントで引けた。ファンダ筋は2000枚売ったもよう。

香港の業界筋は、韓国と日本が遺伝子組み換え(GM)大豆の購入を近く開始する可能性があるとして述べた。これは、非GM品の上乗せ価格拡大で、多くの消費筋が安全性への懸念について妥協せざるを得なくなるとの見方だ。

ブラジルの最大の大豆生産州マトグロッソでは良好な降雨に加え、さび病の発生も少ないことから、クロップツアー参加者らは、今年の同州のイールド(単位面積あたり収量)は過去最高になると予想した。

メテオロジクスによると、南米産地の天候は強弱まちまちの内容。大豆の生育後期にあるブラジル南部では今週の雨が恩恵となっているが、同国北部では雨により収穫が遅れているという。(ロイターES時事)

## 【砂糖】

2008/02/28 05:43

**小幅続伸 = 若干の利食い売りにより〔NY砂糖〕(27日)**

小幅続伸した。ただ、1年半ぶりに更新した高値から若干値を消した。ブローカーによると、時間外で堅調だったが、小口の利食い売りが出た。

電子取引5月きりは午後1時52分現在、0.11セント安の14.43セント。レンジの上限は約定最高値となる14.99セント。下限は14.31セント。

立会取引の5月きりは0.09セント高の14.63セントとなった。これは、2006年8月初め以来の高水準。レンジは14.37-14.70セント。推定出来高は9894枚。今週末に納会を控えている3月きりは0.06セント高の14.11セント。レンジは13.92-14.18セント。

あるディーラーは、「利食い売りが若干出た。ファンダ筋による買いが時間外でみられ、相場を再び押し上げたが、日中の取引の大部分ではマイナス圏で取引された」と述べた。

トレーダー筋は、原油が反落したことで砂糖の弱地合いが強まったかもしれないと指摘している。多くの市場参加者は3月きりから期先にポジションを引き続き移行させている。

情報提供：時事通信社

● 「時事通信 商品マーケットサマリー」に掲載されている情報の著作権は、時事通信社または外部の情報提供者に帰属しており、無断で使用(複製、転載等)することはできません。

● 掲載されている情報は、作成時点までの最も信頼できると判断される各種情報、データ等に基づいて提供されています。万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。

● 本サマリーは、投資勧誘等を目的としたものではありません。掲載されている情報を利用した結果、または情報の遅延、中断、誤りによって被ったとされるいかなる損害についても、時事通信社および外部の情報提供者は一切責任を負いません。



26日現在の3月きりの未決済約定は、8838枚減の7454枚。一方5月きりは4975枚増の42万8397枚だった。

ケイ線筋によると、立会取引5月きりの下値支持線は14.50セント、上値抵抗線は15.00セント。(ロイターES時事)

## 【コーヒー】

2008/02/28 04:19

### 10年ぶりの高値に急反発〔NYコーヒー〕(27日)

10年ぶりの高値に急反発した。トレーダーらによると、ファンド筋の買いが大量に入ったほか、ドル安が支援材料になったという。立会取引の終了後も、相場は上昇を続けている。

あるトレーダーは、「引け後も相場押し上げを決めたファンド筋があり、あと幾らかばいせん筋の買いが追隨したようだ」と語った。

立会取引の中心限月5月きりは3.80セント(2.4%)高の164.10セントと、1998年2月以来の高値水準で終了。レンジは162.30-164.40セント。その他の限月は3.20-3.75セント高となった。推定出来高は1103枚。

インターコンチネンタル・エクステンジ(ICE)で取引される農作物先物商品は、3月3日から電子取引に全面移行する。立会取引の最終日は週末29日。

電子取引5月きりは午後1時43分現在、5.55セント(3.5%)高の165.85セント。レンジは161.30-166.35セント。その他の限月は4.05-5.45セント高。

バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長がこの日の議会証言で、インフレに言及しつつも利下げ継続方針を示唆したのを受け、ドルは対ユーロで最安値を更新。ドル安により、他の通貨を保有する投資家らにとってドル建てコーヒーに割安感が浮上し、買いを後押しした。(ロイターES時事)

## 【為替】

ドル/円 106.42-52 (現地 27日17時現在)

2008/02/28 08:28

### 円、一時105円台 = ユーロは対ドル最高値〔NY外為〕(27日)

【ニューヨーク27日時事】27日のニューヨーク外国為替市場は、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長が議会証言で追加利下げを示唆したことから、ドル売りが加速した。このため、対ドル相場はユーロが一時1ユーロ=1.5144ドルの史上最高値を付けたほか、円も1ドル=105円95銭と約3週間ぶりの高値水準まで上伸した。

午後5時現在、円は1ドル=106円42.52銭で、前日同時刻(107円22.32銭)比80銭の円高・ドル安。ユーロ相場は1ユーロ=1.5115.5125ドル(前日午後5時は1.4969.4979ドル)、対円では同160円93銭.161円03銭(同160円60.70銭)と約1カ月半ぶりの高水準。

同日は、朝方発表された1月の米耐久財受注額が前月比5.3%減と5カ月ぶりの大きな減少幅となった。その後発表された1月の米新築住宅販売件数も前月比2.8%減の年換算58万8000戸と、約13年ぶりの低水準に落ち込み、米景気懸念を背景にドルが軟調に推移した。

前日発表された1月の米卸売物価指数の大きな伸びや、原油など商品相場の急騰でインフレ懸念がくすぶっているが、議会証言に臨んだバーナンキ議長が「景気の下振れリスクは依然残っている。必要に応じてタイムリーに行動していく」と追加利下げの可能性を強調したため、さらなるドル売りを誘った。

情報提供：時事通信社

● 「時事通信 商品マーケットサマリー」に掲載されている情報の著作権は、時事通信社または外部の情報提供者に帰属しており、無断で使用(複製、転載等)することはできません。

● 掲載されている情報は、作成時点までの最も信頼できると判断される各種情報、データ等に基づいて提供されています。万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。

● 本サマリーは、投資勧誘等を目的としたものではありません。掲載されている情報を利用した結果、または情報の遅延、中断、誤りによって被ったとされるいかなる損害についても、時事通信社および外部の情報提供者は一切責任を負いません。



2008/02/28 07:46

**ドル、水準下げもみ合い=材料次第で下走りか〔外為・今日の材料〕(28日)**

28日の東京外国為替市場でのドル円相場は、米経済指標に不冴えなものが目立ち売り優勢だった前日の海外市場の地合いを引き継いで1ドル=106円台をもみ合う展開が予想される。予想レンジは1ドル=105.80-106.80円辺りと見られる。

前日の海外市場では米1月耐久財受注が前月比5.3%減に落ち込んだ上、同新築住宅販売も同2.8%減となり12年11カ月ぶりの低水準に収縮して米経済の実体・先行き面での懸念が広がり、ドルは一時105円95銭まで売られた。ただ、注目されたバーナンキ米FRB議長の下院での証言が、景気下振れリスクとインフレリスクの両面を警戒する予想された内容だったため、マイナス圏だったNY株が小幅続伸となるに伴い106円台半ばまで買い戻された。米政府系住宅金融機関に対する住宅ローン債権買い取り上限を3月1日付で撤廃する米政府決定については今のところ外為市場への影響は限定的となっている。

本日は早朝、1月の鉱工業生産指数が発表され、時事通信の集計では前月比0.8%減と予測されているが、少々のブレでは為替への影響は極めて限定的と見られる。さらに午前水野日銀審議委員が大分県経済人と懇談、講演し、午後記者会見が予定されている。タカ派として対米協調利下げの余地が小さいことを強く示唆すれば、市場はやや円買いに反応すると見られる。

海外時間でも大きな経済指標は予定されず、前日に続きバーナンキ米FRB議長の議会証言に注目が集まっている。このところ米株式相場への切迫感が薄らいでいる一方で、一時102ドル台乗せの原油市況を前に、景気・インフレ両方にらみのうちこれまで景気に重点が傾いていた姿勢に変化が表れるかが注目される。

**【株式】**

	終値	前日比
<b>ダウ平均株価(ドル)</b>	<b>12694.28</b>	<b>9.36</b>

2008/02/28 07:55

**NY株、横ばい=利下げ期待が下支え〔米株式〕(27日)**

【ニューヨーク27日時事】27日のニューヨーク株式相場は、過去3営業日の急騰を受けた利食い売りと、利下げ期待を背景とした買いが交錯し、結局ほぼ横ばいで取引を終えた。優良株で構成するダウ工業株30種平均は前日終値比9.36ドル高の1万2694.28ドル、ハイテク株中心のナスダック総合指数は同8.79ポイント高の2353.78で終了した。ニューヨーク証券取引所の出来高は7471万株減の14億6180万株。

ダウ平均は信用不安の後退を背景に過去3営業日で400ドル上昇したが、この日は米耐久財受注と新築住宅販売がいずれも市場予想を大きく下回り景気の先行き懸念が再燃、利食い売りが先行した。

だが、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長が議会証言で「米景気の下振れリスクは依然残っている」と発言、追加利下げに動く用意があることを強調すると、市場では買い安心感が広がり、相場は切り返した。

さらに、米政府の監督下にある住宅金融会社2社に課していた住宅ローン債権買い取り総額の上限が3月1日付で撤廃されると発表されると、両社の資金が冷え込んでいる住宅市場を下支えするとの期待感が膨らみ、相場は一時上げ幅を拡大した。

だが、引けにかけては再び前日終値を挟んでもみ合う展開。「米景気の減速感が強まっていることに対する懸念と、追加利下げが景気を下支えてくれるとの期待が綱引きしている」(中堅証券)という。

個別銘柄では、シティグループ、ゴールドマン・サックスなど金融関連の一角がしっかり。

情報提供：時事通信社

●「時事通信 商品マーケットサマリー」に掲載されている情報の著作権は、時事通信社または外部の情報提供者に帰属しており、無断で使用(複製、転載等)することはできません。

●掲載されている情報は、作成時点までの最も信頼できると判断される各種情報、データ等に基づいて提供されています。万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。

●本サマリーは、投資勧誘等を目的としたものではありません。掲載されている情報を利用した結果、または情報の遅延、中断、誤りによって被ったとされるいかなる損害についても、時事通信社および外部の情報提供者は一切責任を負いません。